

令和 4 年 9 月 5 日現在

機関番号：32309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12135

研究課題名(和文) 看護センス育成モデル構築に向けた看護センスの概念の解明と尺度開発

研究課題名(英文) Elucidation of the concept of Nursing Sense and development of scale for the construction of a Nursing Sense development model

研究代表者

上星 浩子 (JOBOSHI, Hiroko)

群馬パース大学・保健科学部・教授

研究者番号：20389745

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、看護センス育成モデル構築に向けた看護センスの概念の解明と尺度開発をすることである。研究の第1段階として文献、書籍から概念分析を行い、看護センスの概念を明確にした。第2段階として、看護教員を対象に看護学生の看護センスの構成要素を抽出した。臨床看護師を対象にインタビュー調査を行い、看護師の看護センスの構成要素を抽出した。の構成要素より看護学生、臨床看護師の看護センスの尺度原案を作成した。さらにAustraliaの看護師や教育者へヒアリングを行い、国際的な視点から看護センスの概念を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護のセンスは、目に見えにくい能力であるため、看護センスの概念や構成要素が解明されることで統一した認識を得ることができる。また看護センスの構成要素は、看護学生、臨床看護師のセンス向上のために必要な能力である。さらに看護学生や看護師が看護センス評価尺度を用いて自己評価ができることで、自己の強化すべき課題の可視化が可能となり、具体的目標や可能な指標を意識することができ、自己成長や看護能力の向上に活用できる。また、看護学生、看護師の実践能力の強化や看護基礎教育、看護職者の継続教育(研修等)の評価にも活用できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the concept of nursing sense and develop a scale for the construction of a nursing sense development model. As the first phase, a conceptual analysis was conducted from literature and books to clarify the concept of nursing sense. In the second phase, (1) we extracted the constructs of nursing sense from nursing faculty members and nursing students. (2) Interviews were conducted with clinical nurses to extract the constructs of nursing sense. Based on the constructs (1) and (2), a draft scale of nursing sense was developed for nursing students and clinical nurses. Furthermore, interviews were conducted with nurses and educators in Australia to examine the concept of nursing sense from an international perspective.

研究分野：基礎看護学、臨床看護学

キーワード：看護学 センス 看護教育 尺度開発

## 1．研究開始当初の背景

臨床現場で必要とされる臨床実践能力と看護基礎教育で修得する看護実践能力との乖離が新人看護職員の離職の一因であると指摘されている。看護実践能力の低下の要因が基礎看護教育における専門的知識や技術に基づいた能力の不足であるならば、特定の状況に応じた援助技術の経験に焦点をおき、教育・評価することによって問題は改善すると考える。研究者らも看護基礎教育において様々な取り組みを行ってきたが、学生は現象を捉えることはできるが、分析、推論、アクションプランまで至ることは少ないことや、教員は学生の日常性の感覚・生活経験の欠如や対人技能に気がかりを感じているなど、未だ多くの問題を抱えている。また、現代の学生の特徴として、決められたマニュアル通りのことは実施できるが、状況を“察する”ことや“感じる”など熟考することが困難である。このような特徴をもつ学生や新人看護師に、ただ知識やスキルを高めるための教育を行っても看護実践能力が向上するとは考えにくい。対象の状況を感じ、様々な現象と知識を瞬時に統合し、その意味を考え、自ら行動を起こすことができる人材育成が重要な課題であるといえる。よって質の高い看護職者を育成するためには、社会人として基盤となる基礎力と専門職としての看護実践能力の両側面から捉えた看護の質を保證できる教育課程の見直しや取り組みが急務である。

### <看護センスの概念の解明と尺度開発の必要性>

臨床実習において知識や経験の乏しい学生がスタッフさえ気づかない異変を発見することや思いもしない看護援助を提供し患者を笑顔にすることがある。一方、原則にそった援助を着実に提供できるが、患者と信頼関係を築けない学生もいる。そのような現象に対し、教員や指導者は「センスが良い、悪い」と評価することがある。つまり知識や技術があるから良いということでない。また常並みの看護を単に提供しているのでもセンスが良いとは言えない。センスとは、感覚、知覚、思慮、判断力、悟り、直感的な理解、感覚によって分別すること、感じ取ることである。看護におけるセンスは、知識や技術など看護実践能力だけでなく、現象や物事の感じや味わいを微妙な点まで悟ることや患者の思いを汲み取り、その思いに沿った看護を提供することではないかと推測する。看護は、対象を理解し、その人のニーズを見極め、必要なケアを提供することであり、動的に変化する。そもそも同じ疾患であっても1人として同じ人はいないため、提供する看護も違う。対象を理解し、質の高いテーラーメイドな看護を提供するためには、センスの良い看護師を育成することが看護教育において大きな課題である。また、一般的に技術がその時点の限界まで達すると一時的に停滞し、人々の認識が変容すると言われている。医療においても同様であり、急激な医療技術の進歩を遂げた今、人々の意識は医療技術に加え、看護センスの良さを求めているのではないだろうか。しかしセンスという概念は漠然としており、目に見えない潜在能力であるため、数値化することは困難であるが統一した認識がないと看護のセンスを評価することはできない。よって看護センスの概念を解明し、センスを評価する尺度開発は学術的にも意義のあることである。

## 2．研究の目的

本研究の目的は、看護センス育成モデル構築に向けた看護センスの概念の解明と尺度開発である。本尺度は、看護師が看護センスを自己評価し、自己の能力の改善や調整を図り、自己成長や看護能力の向上のために活用できる尺度を目指す。

## 3．研究の方法

#### (1) 第1段階

文献検討、関連書籍から看護センスの概念を明確にする。

この成果は看護センスを問う尺度開発の基盤とするため、「Competency」「Sensibility」など、センスに近い概念である先行研究や文献検討を行う。さらに「センス」は、ファッションやスポーツなど幅広い分野で使用されていることから他分野における概念も参考に検討する。

#### (2) 第2段階

看護教員が捉える看護学生の看護センスの概念および構成要素を明確にする。

看護教員を対象に自記式質問紙調査およびインタビューを行う。質問項目は、“看護のセンスがよいと感じた場面やその内容、看護センスを構成する要素である。看護センスの構成要素は、自記式質問紙に記載のある看護のセンスが良いと感じた場面や内容からデータの意味内容の類似性、異質性に従い、質的帰納的に分析する。

臨床看護師が考える看護センスの概念および構成要素を明確にする。

臨床看護師および看護管理者を対象に「看護のセンスが良いと感じた場面(人)の具体的内容」についてフォーカスグループディスカッション(FGD)を行い、質的帰納的に分析する。

臨床看護師が考える看護センスは、臨床現場において直接的に経験した場面であり、看護師とクライアントが展開する相互行為や行動、看護師の思いなど様々な現象が絡み合っている。またFGDは、各個人の考えを自由に語ってもらい、一つの意見からほかのメンバーが反応し、さらに豊かに深く意見が表出される。調査対象は、臨床経験5年以上の看護師である。臨床経験5年以上の看護師は、パトリシア・ベナーの唱える中堅看護師であり、状況を部分というよりは全体として捉えるということや選択肢を少数に絞り、問題の核心部分に焦点を当てられるということから、看護に関する微妙な事象を感じ取る能力が高いと考えているためである。また、看護師のインタビューから「自分より年齢や経験の多い人に向かってセンスが良いと表現しない」という意見から、ベテラン看護師である看護管理者も調査対象にした。

看護センスの概念を国際的な視点から検討する。

Australiaの医療や看護の現場における看護センス(Australiaにおける看護センスに近い概念を抽出)に関して、看護師や教育者を対象にヒアリングを行い、国際的な視点から分析する。

## 4. 研究成果

#### (1) 第1段階：看護センスの概念の検討

「看護」「センス」をキーワードに先行文献を検索した。臨床看護師を対象とした看護のセンスやその構成要素を明らかにしている研究はなかった。そこでセンスの類語として「資質」「能力」が存在したため、「資質」「看護実践能力」をキーワードとして検索を行ったが、看護センスに関する具体的な内容を示した研究はなかった。よって概念の構造を明らかにするため、Walker & Avant(1988)の分析手法を用い、『看護センス』という概念を明らかにするために言語辞典やセンスに関する書籍、諸学問領域における研究論文をもとに分析を行った。「Sense」は、五感による感覚や感じ取る能力であるが、日本語で使用する「センス」は、単に感じるという能力だけでなく、物事の感じや味わいを微妙な点まで悟り、理解し、それを表現の仕方や行為に現れ出るものを意味していた。よって看護センスは、「単に“感じる”“気づく”

という感性や専門的な知識、技術に基づき看護を実践するだけでなく、対象の状態や思いを根底に多角的な視点から捉え、その人らしくいられるための効果的かつより最善のケアを提供できる能力(人)」と定義した。

## (2) 第2段階

### 看護教員の捉える看護学生の看護センス

センスが良いと感じた場面の内容や看護センスを構成する要素を分析した結果、【関心を持ち、注目できる】【人間関係構築のための良好なコミュニケーションができる】【広い視野で情報収集できる】【より効果的な看護実践を行うために思考を発展できる】【状況を察知し、危険を回避することができる】【個別性に応じた看護援助を臨機応変に手際よく実践できる】【対象の思いに共感し、その人が望む行動が自然にとれる】【目的意識を持ち、主体的に行動できる】【他者の利益のために探究できる】【自己の考えを言語化し、他者へ発信できる】【他者の視点や状況を受け入れ、柔軟に対応できる】【自己を理解し、コントロールできる】【他者と協調できる】【価値を共有し、尊厳を持った行動ができる】の15カテゴリ、42サブカテゴリが生成された。本研究の結果から、看護教員の捉える看護学生のセンスは、「技術や経験、倫理観などの看護基礎力とチーム間における情報共有や連絡調整のためのチーム力を基盤に、観察やコミュニケーションを通して少ない情報の中から患者に必要なことを感じ取り、喜びを共有するなど相互満足に繋がる看護行為である。そしてそれらはバラバラに働くのではなく、組み合わせさせて機能する。」と考えた。看護教員が捉えた看護のセンスが良い学生は、「単に必要な看護実践を提供するだけでなく、対象を理解しようとする姿勢があり、コミュニケーションをベースにその状況の意味を見極め、思考を発展させながらより効果的な看護実践を提供できる人」であった。本研究の結果から看護学生の看護センス尺度として、15因子42項目からなる尺度原案を作成した。

### 臨床看護師の看護センス

臨床看護師が考える看護センスとして、臨床看護師および看護管理者を対象に分析した。

臨床看護師が考える看護センスを構成する要素は、【患者の本音や見落としそうな情報を的確に収集できる】【現状を把握し、知識・経験・直感を活かし統合的な分析や判断ができる】【患者の細かい状況に応じた看護技術を提案できる】【患者の気持ちに配慮し、慈愛のある行動が自然にできる】【分け隔てなく他者と良好な関係性を構築できる】【患者の状態を要点を押さえて、分かりやすく他者へ発信できる】【手際良く、巧みに、出来栄の良い看護技術を提供できる】【問題解決へ向け柔軟性があり、周りを巻き込んだ行動できる】の8カテゴリ、31サブカテゴリが生成された。看護師の考える看護センスは、「より良い看護技術の提供」「忌憚なき意見を発信し、行動する」「心地良いという感覚を察することに長けている」ことであり、状況を多角的に判断し、相手の心地良いという感覚を察し、マニュアル的でない自然な行動ができることであると考えた。

看護管理者が考える看護センスを構成する要素は、【看護者としての知識や視点を持つ】【患者の状況や反応を情報としての的確にキャッチする】【患者の発信している状況から本質を見極める】【患者の状況を統合的に分析し、問題を明確にする】【最悪の状況を見据えて行動する】【自己の考えを発信する】【創意工夫された卓越した技術を提供する】【良好な関係性の構築に結びつくコミュニケーションをとる】【共感や思いやりのある対応をする】【目的意識をもって主体的に行動する】【五感を超えた感性がある】【求

められる役割以上の行動をとる】【周囲の状況を把握し、円滑な業務遂行のための行動をとる】の 13 カテゴリー、39 サブカテゴリーが生成された。本研究の結果から、看護管理者が考える看護のセンスの良い人は、「的確に情報をキャッチし、過去の経験や知識からその意味を見極め、対象の状況に応じて行動を起こす」ことのできる人であった。また看護管理者の考える看護センスの特徴は、円滑に業務を遂行するためのマネジメントや良好な人間関係を構築するなど管理的視点があげられていた。本研究の結果から、看護センスは「単に、行動・実践できるか」ということだけではなく、人間としての尊厳や看護の目標を達成するために「いかにより良く、行動・実践できるか」というテーラーメイドな看護を提供できる」ことであった。

5年以上の臨床看護師、看護管理者を対象とした結果から、研究者間で再度検討を繰り返し、臨床看護師の看護センス尺度として、8 因子 66 項目からなる尺度原案を作成した。

### 国際的な看護のセンス

国際的探求においては、「看護センス」の概念枠組みおよび臨床看護師から得た質的分析の成果に補完的に用いることを目的に Australia 在住の看護師 3 名を対象にインタビューを行った。結果、Australia では看護場面や看護師の能力において、「センス」という用語は使用されてなかった。「センス」に代替する用語として、「言われなくても自然に振るまう Natural 」、 「先のことを考え、察し、仕事をする Suss out 」、 「段取りがよい事を示す clockwork 」、 「環境や患者の状態に応じて柔軟性を持つ Flexible 」 など、看護実践を豊かにする行動特性が示された。また Intuition Look at the patient and listen Holistic approach など、患者の観察を中心として様々なデータを統合し、判断する実践能力や compassion Empathy Mutual understanding Humanity Being patient centered Advocacy など、患者の尊厳を保ち、相互理解につながる態度が示された。

### 本研究の意義と今後の展望

看護のセンスは目に見えにくい能力であるため、看護センスの概念や構成要素が解明されることで統一した認識を得ることができる。また、看護学生や臨床看護師が看護センス評価尺度を用いて自己評価ができることで、自己の強化すべき課題の可視化が可能となり、具体的目標や可能な指標を意識し、自己成長や看護実践能力の向上に活用できる。また、尺度得点や分布からキーとなる要素や行動を予測することができ、教育進度や状況に応じた教育プログラムに活用できる。さらに教育機関あるいは医療機関で行われる看護継続教育（研修）の教育評価に活用できる。看護センスが向上することにより、広い視野と柔軟な考え方を獲得でき、様々な経験を通して、人間関係の構築や質の高い看護実践の向上、さらに業務の最適化に繋がる。よって本尺度は看護基礎教育や看護師の継続教育に十分に貢献でき、社会的、学術的にも大きな意義をもつと考える。

今後の課題は、信頼性、妥当性が検証した尺度を看護師および看護学生を対象に使用し、尺度の有用性を検討する。そしてセンスの構成概念や尺度項目、得点分布から看護師および看護学生に必要な要素や行動の傾向を抽出し、現実適合性のある看護センス育成モデルを構築する。そして構築したモデルを基盤とした教育的介入プログラムの開発をめざす。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 上星浩子, 川島美佐子, 佐藤晶子, 堀込由紀
2. 発表標題 看護センスの概念と構成要素-看護におけるセンスってなに? センスが良い看護師ってどんな人?-
3. 学会等名 日本看護科学学会第39回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上星浩子, 川島美佐子, 佐藤晶子, 堀込由紀
2. 発表標題 看護教員が捉える看護学生のセンスに関する研究
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上星浩子, 佐藤晶子, 堀込由紀
2. 発表標題 看護管理者が考える看護のセンスに関する研究
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中嶋康介, 清水健太, 葉賀将, 齋藤景, 上星浩子
2. 発表標題 臨床看護師が考える看護のセンスに関する研究
3. 学会等名 日本看護技術学会第16回学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	川島 美佐子  (KAWASHIMA Misako)  (80412972)	足利大学・看護学部・教授   (32201)	
研究 分担者	佐藤 晶子  (SATO Teruko)  (90458472)	群馬パース大学・保健科学部・講師   (32309)	
研究 分担者	堀込 由紀  (HORIGOME Yuki)  (00512493)	群馬パース大学・保健科学部・講師   (32309)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------